



日本 DMORT ニュース第 16 号(案)

DMORT の公式ニュースレター

目次

1. 愛媛県警察との協定締結
2. 学会参加報告訓練
3. 養成研修・訓練のご案内
4. 事務局からのお知らせ

1. 愛媛県警察との協定締結

理事長 吉永 和正

令和6年3月21日(木)13:30より愛媛県警察本部にて協定の締結式が行われました。多数のマスメディアが見守る中で、山浦親一 愛媛県警察本部長と吉永和正 日本 DMORT 理事長が協定書に署名しました。(写真1) 日本 DMORT からは松山市出身の河野智子理事と今回の協定締結を推進した正会員の主田英之医師が出席しました。(写真2)

これまでに愛媛県警察との関わりがあったのは平成30年(2018)7月の西日本豪雨災害の時です。7月6日に8府県に大雨特別警報が発表され、8日には愛媛県にも発表されました。広島、岡山に甚大な被害をもたらしたこと



写真1 愛媛県警察本部との協定締結

はよく知られていますが愛媛県も甚大な被害を受けています。死亡者・行方不明者の数は広島県 114 名、岡山県 64 名について愛媛県 27 名となっています。

この間、日本 DMORT もチーム派遣を検討しました。7 月 9 日に兵庫県警被害者支援室を通じて、被災各県警と連絡をとって現場活動を模索しましたが、10 日には岡山、広島県警より受入困難との連絡がありました。11 日に愛媛県警と連絡をとったところ、発見され死亡が確認された方々はすべて家族のもとに引き取られていることが判明して DMORT の派遣を断念しました。この時に、事前協定の必要性を強く感じました。

今回の協定締結につながった直接の契機は徳島県警との協定締結でした。徳島県警関係者が四国の他県に連絡をとって打診をしてくださいました。その結果、愛媛県警では年明けにかけ他の協定内容などの資料集めとともに内部での検討をすすめ、協定案を作成されました。

主田先生を通じて協定締結の打診があったのは 2 月 21 日で、その後理事会に諮り、3 月 1 日には協定内容を受け入れる旨の返事を出しました。3 月 5 日には協定締結式を 3 月 21 日に実施することが決定しました。



写真 3 あいテレビ 3 月 21 日放送



写真 2 愛媛県警察と日本 DMORT

協定文に関しては、支援者支援、研修・訓練の実施については記載されていますが、残念ながら旅費の規定はありません。今回の締結式には、最近の締結式では最も多いと思われるマスメディアが参加しており、地元における関心の高さを確認できました。(写真 3、あいテレビ 3 月 21 日放映)

2. 学会参加報告

第 29 回 日本災害医学会総会・学術集会に参加して

京都第一赤十字病院 看護師 河野智子 (京都支部)

令和6年2月22日(木)～24日(土)京都の地で初めて、第29回日本災害医学会総会・学術集会が開催されました。私の所属する京都第一赤十字病院院長特任補佐の高階謙一郎先生が大会長として、メインテーマ『叡智の結集―すべては被災者のために―』そして、rei 令和6年1月1日16時10分に発生した令和6年能登半島地震、メインテーマのごとく、多くの機関・団体が力を合わせて被災者のために尽力されているこの時期での意味深い開催となりました。

大会3日目のパネルディスカッション32「災害時における遺族・遺体対応の諸問題」で発表の機会をいただき、座長は日本DMORTの理事長吉永和正先生と副理事長の村上典子先生がまとめられました。

最初に登壇されたのは、国際医療福祉大学医学部法医学 本村あゆみ先生「災害時における遺族・遺体対応の諸問題―法医学の立場から―」として、多数遺体取扱いの訓練の重要性や大規模災害時の死因究明、個人識別等の課題のお話をされました。次に、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 法医学分野 齋藤久子先生「身元確認作業に従事する歯科医師とご遺族との関わり―エンバミング効果も視野に入れた災害対応―」として、歯科医師がご家族に身元判定の結果について報告しているケースがあり、精神的影響を受けたというお話やご遺族への説明や手続きに医療的知識のある第三者が関与することにより、ご遺族へのグリーフケア効果につながった経験談、グリーフケアやエンバミング(Embalming EM: 遺体衛生保全処置)についても学び備えておくことが望ましいなどのお話を聴くことができました。続いて河野からは、「DMORTとしての実働経験」として、日本は遺体・遺族対応は警察の管轄であり、DMORTが警察と協働したくても事前の協定が必要なこと。実働経験からも、発災早期より被災県警と協働し遺体安置所での活動を開始することの重要性を感じ、警察の過酷な業務や行政職員のストレスも知ることができたことを発表しました。また、急遽、輪島の遺体安置所での活動についても話をさせていただきました。

最後に、村上典子先生より、「遺体・遺族に対する救援者のメンタルヘルス～過去の災害に学ぶ～」として、過去の災害を振り返りながら遺体・遺族に対応する救援者のメンタルヘルスについて発表をされました。会場には多くの方が傾聴くださり、東日本大震災でご親族を亡くされた方からのご質問もあり、本当に貴重な学びの場となりました。

2) 日本グリーフ&ビリーブメント学会 参加報告

副理事長 村上 典子

令和6年3月2日・3日に京都で開催された第6回日本グリーフ&ビリーブメント学会(G&B学会)に参加してまいりました。と言いますか、実は現在私がこの学会の代表理事を務めております。さまざまな死別における遺族支援について、研究から実践まで多彩な分野、職種が集い、幅広く知見を得ることを目的に設立された学会です。令和1年の第1回大会以来、5年ぶりの対面開催となりました。今回の大会長の福島県立医科大学・瀬藤乃理子先生(公認心理師)はご自身

が阪神・淡路大震災で被災された経験もあり、現在も福島で災害こころの医学講座准教授として、原発被災者や自治体職員の支援にもあたられている方です。また、もともとグリーフケアにも造詣が深く、多くのグリーフケア関連の論文執筆や著書もあり、私とは友人でもあり、知恵袋のような存在です。

今回の大会ではシンポジウム「災害時の遺族・行方不明者家族支援」を企画していただき、私は「さまざまな形での災害遺族支援への取り組み」というタイトルで、DMORT 設立にいたる経緯を含め、中長期的な遺族支援について話させていただきました。河野智子理事には「DMORT 実働経験—ご遺族からいただいた言葉—」を発表していただきました。河野理事のお話は、日本災害医学会のシンポジウムの際のお話と重なると思いますので、ここでは詳細は省きますが、まだ記憶に新しい能登半島地震での経験もお話いただき、多くのインパクトを与えてくださったかと思えます。他のシンポジストは東北大学で臨床宗教師としてご活動の谷山洋三先生の「宗教的ケアの効果と意義」、瀬藤先生の「津波・原発・コロナの支援から得た遺族支援の教訓 コミュニティの傷つきとレジリエンスの視点」でした。



果と意義」、瀬藤先生の「津波・原発・コロナの支援から得た遺族支援の教訓 コミュニティの傷つきとレジリエンスの視点」でした。

われわれ DMORT は災害直後の遺族支援が目的であり、中長期的な遺族支援を直接行うわけではありませんが、そもそも当法人会員の中には遺族支援全般に関心のある方もいらっしゃるでしょうし、DMORT が関わった後の遺族がその後どのような経過をたどっていき、どのような支援を受けるのかを知ることが有意義なことと思われます。この学会にご興味ある方はまた学会HPなどご覧ください (<https://js-gb.com/>)。なお、次回第7回大会は令和7年3月15日土～16日、大阪市立総合医療センターで開催予定です(日本災害医学会と1週間遅れで続いてしまうのが痛手です……)。

3. 養成研修・訓練のご案内

◆第28回日本DMORT養成研修会 IN 京都

日時：2024年9月28日(土)

場所：龍谷大学深草キャンパス 22号館102教室

◆京都府警訓練

日時：2024年9月4日(水)

場所：京都

◆中部国際空港

日時：2024年10月10日（木）

場所：愛知県

◆滋賀県合同防災訓練

日時：2024年10月20日（日）

場所：滋賀県

6. 事務局からのお知らせ

- ◆ 当法人の会計年度は1～12月ですので、まだの方は会費納入を宜しく申し上げます。ご自身が会費納入をしているか不明の方は事務局までお問い合わせください。

- ◆ 2023年度会員情報

理事 8人

正会員 21人

登録会員 155人

賛助会員 3団体

- ◆ 理事名簿

理事長 吉永和正(医療法人協和会副理事長)

副理事長 村上典子(神戸赤十字病院心療内科部長)

理事 北川喜己(名古屋掖済会病院院長)・愛知県支部長

久保山一敏(京都橘大学健康科学部教授)

黒川雅代子(龍谷大学短期大学部教授)・京都府支部長

河野智子(京都第一赤十字病院看護部)

長崎 靖(兵庫県監察医務室)

山崎達枝(四天王寺大学看護学部看護学科准教授)

監事 鵜飼卓(兵庫県災害医療センター顧問)

【事務局所在地】

住所：〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112(代) FAX：0798-32-1222

E-mail: information@dmort.jp

日本 DMORT ホームページ <http://dmort.jp>

◆編集後記◆

今年も猛暑の予報通り、日本各地で気温が 35℃を超えておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。熱中症への嚴重警戒もさることながら、例年この時期の雨は、線状降水帯の発生などによる集中豪雨から海や川の水難事故や、山での遭難も目立ち、被害が少なくありません。また COVID-19 の 5 類移行後の最大波といわれるようにコロナ感染症が増加しており、医療者としてまだまだ忙しい毎日が続きそうです。

ご多用とは存じますが、皆様どうぞご自愛ください。

(編集担当:山崎・矢野)

